

# 知名町シマの民泊推進協議会

(知名町)



沖永良部島は、奄美群島に位置し、周囲55.8km、面積93.8km<sup>2</sup>の隆起サンゴ礁からなる。近年では東洋一の鍾乳洞「昇竜洞」をはじめとする200～300ともいわれる大鍾乳洞群を探索するケイビングや、周囲の美しい海でのシュノーケリング、ダイビングを目的に訪れる方も増えている。温暖な気候を活かしたスプレーギク、ユリなどの花卉栽培、じゃがいも、さとうきび栽培が盛んで、生産高も大変高い。最高地点は240mで大部分がなだらかな土地に広々と畑が開かれている景観が青い海と相まって美しい農村風景を形成している。

島は南西部の知名町と北東部の和泊町からなるが、このうち知名町では2015年に知名町シマの民泊推進協議会を設立。町では希望者に簡易宿所営業の申請手数料や消防設備設置の関の補助を行い、4件が農林漁業体験民宿を開業した。

「島を訪れる観光客は増えているのを感じるが、ホテルに泊まり、鍾乳洞などを「見る」観光にとどまっており、この島のよさ、人のよさをPRするためには民泊が向いているのではと思った。」と知名町役場企画振興課の西富士雄さん。たしかに車で道路を走りながらみる景色も美しいが、それぞれの民宿の庭や、窓越しに見る風景は穏やかでありながらどこか特別感にあふれており、「もうちょっとここでくつろぎたいな」と思わせてくれる。

東則雄さんの宿「アガリファーム」は、瀬利覚集落せりかくにある。瀬利覚集落は「ジッキョヌホー」（「瀬利覚の川」の意）という昔から大切にされてきた湧水が名水百選に選ばれるなど高名な地域だ。民宿開業後は大学と連携して学生受け入れなどを行っており、夜は集落の方々との交流なども生まれている。「洗濯のすすぎはジッキョヌホーでもらっているよ」と

↑大きな木陰や、星空がきれいにみえるベランダなど、ゆっくり過ごしてもらおうという仕掛けが随所にみられた。



↑畑には南国らしいものがぎっしり。年間を通じての南国を感じられる体験が可能。

集落の資源を自然に生かした体験ができるのも魅力だ。また宮西ケイ子さんの宿「農家民宿菜の花」では、もともと総菜店を営んでいるということでご当地らしい料理づくり、お菓子作りを通じて島の良さをPRしている。また開業を機によりよく体験をしてほしいということで黒糖づくりの窯も手作りしたという。

一方、和泊町では地域おこし協力隊として移住した職員が農林漁業体験民宿を立ち上げており、今後も増えていく予定。2017年度には沖永良部島の町域を越えて農家民宿の協議会が結成される予定だ。





<発行>

鹿児島県農政部農村振興課

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町 10-1

電話：099-286-3108 FAX：099-286-5589